令和6年度第9回総合交流施設建設を更に推進する会 議事録

日時：令和6年11月5日（火）19時～20時

場所：役場2階会議室

1 開 会

2 議 事

(1) ようていあしばープロジェクトについて（これまでの経緯）

(2) 建設候補地における地質調査結果について

(3) 建設規模について

(4) 基本設計業務(R7)について

○事務局

皆さんお疲れさまでございます。お時間になりましたので令和6年度第1回総合交流施設建設を更に推進する会を始めさせていただきます。

今年度担当になりました町田さんの後任であります、教育委員会事務局の名越と申します。よろしくお願いいたします。皆様には、6年度第1回の会が11月と大変遅くなりましたことをこの場でお詫びしたいと思います。今後は、毎月実施していく予定ですので皆さんご協力の程よろしくお願いいたします。

それでは早速ですが会次第に沿って始めさせていただきます。会次第にあります2番目の委嘱状の交付ですが、その前に初めての方もいらっしゃいますので、まずは委員のご紹介をしていきたいと思ひます。

委員名簿案の一番上から順番にいりますが、皆さん各自でいきますか、私からでもいいですか。では、バレーボール連盟、ビジネスホテルうぐら浜経営の川添英雄さんです。よろしくお願いいたします。ごめんなさい。ここでちょっと訂正がありますが、沖永良部島観光協会徳田英輔さんです。よろしくお願いいたします。次にNPO法人沖永良部スポーツクラブ ELOVE 理事長、前田純也さんです。よろしくお願いいたします。町づくりコンサル業有識者であります古村英次郎さんです。よろしくお願いいたします。本日欠席しておりますが、元気！わどまりクラブ代表の西谷麻巳です。次に、ふう助産院の兼子颯華さんです。よろしくお願いいたします。次に和泊町スポーツ推進員、社会福祉協議会の池田照泰さんです。最後に西温子さんと書いてますが、ごめんなさいここは協議の上で今回外すことになりましたので削除お願いいたします。

それでは委嘱状の交付に入らせていただきます。委員を代表しまして古村さんに委嘱状の交付をしたいと思います。副町長よろしくお願いいたします。

○副町長

委嘱状 古村英次郎殿、あなたを和泊町総合交流施設建設を更に推進する会委員に委嘱する。任期は令和9年3月31日までとする。令和6年11月5日和泊町長前登志朗。

○事務局

ありがとうございました。大事な報告を忘れておりました。今年度から教育委員会事務局に堀江勇泉が入っております。

そして今回新たにオブザーバーということで、本日4名お越しいただいております。和泊町企画課、沖田奄振担当です。よろしくお願ひします。

次に、和泊町土木課 栄建築士、そして総務課から三島才輝財政担当、同じく総務課から吉田航大財政担当であります。

令和8年度まで、このメンバーでいきたいと思ひますので、皆様ご協力のほどよろしくお願ひいたします。それでは町長挨拶をお願ひいたします。

○副町長

それでは皆様、改めましてこんばんは。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

皆さんもご承知の通りだと思ひますけれども、この交流施設を更に推進する会、非常に任務が重要だとそれぞれ認識しているかと思ひます。再度もう一度確認させていただきたいと思ひます。

まず、会議の一番大事なことと言ひますのは、建設に向けて、皆様方で提案した案件について、町はそれを基に予算化したり、計画をしたりして、それからもう1点は、会員の皆様の結束力っていうか、一步一步確実に決まったことは実行し、そういった組織であるということ、そして、やっぱり共通認識をしていただきたいというのが一番大事なことになるかと思ひますけれども、まず町の状況をしっかりと把握して、と言ひますのはやはり皆さん、更に推進する会ということで、やはりプラス思考になるんですね、どうしても。

ですから、でき上がった時に反対する人は誰もいないもんですから、めちゃくちゃ大きな器になったり、贅沢品がいっぱい出てくると、そういう状況になりかねない。

これはもう過去に私、何度も経験をしておりますのでその辺を十分認識していただきたい。

そのために、財政状況、それから将来の人口、そして今の利用状況、しっかりとご留意いただきたい。

あと、管理費用、管理運営、それから去年まではさほどなかったんですけども、今年に入って特に反対する方々が非常に増えてきて投書もたくさんきています。そういったことですね、それを私が申し上げたいいろんな案件を頭に入れた中でやっぱり提案をしていただきたいということです。

そういうことで大変厳しいことを申し上げますけれども、せっかくこうしてでき上がってきた会でありますので、確実に一步一步進めていって、晴れた暁には、やっぱり建設というところまでしていただければなと思ひます。

大変厳しいことをしょっぱなから申し上げて、すいませんけれども、これは町長の挨拶代読ということで私からは終わります。よろしくお願いします。

○事務局

副町長ありがとうございました。では、会次第4番目の会長及び副会長の選任についてということで、どなたか会長及び副会長を推薦または立候補する方がいらっしゃいましたらお願いいたします。

会長には昨年に引き続き、古村英次郎さんでよろしいでしょうか。（拍手）よろしくお願いします。

では副会長に昨年に引き続き、徳田英輔さんよろしくお願いします。（拍手）それではこれからの協議については会長に議事進行を進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○会長

では協議を進めていきたいと思えます。資料1から事務局の方説明よろしいでしょうか。

○事務局

はい。お手元の資料1になります、よーていあしばープロジェクトで平成24年度からの経緯を載せております。

令和5年1月26日に第1回和泊町総合交流施設建設を更に推進する会を開催し、これまで令和6年3月25日第8回更に推進する会を実施しております。

その中で、今年度につきましては令和6年10月11日に決算審査特別委員会で現地調査ということで、新たな本町の議員さんと城ヶ丘中学校校舎東側にて地質調査結果を説明してございます。

本日11月5日第1回和泊町総合交流施設建設を更に推進する会を開催し、今後の予定ですが、12月、2月、3月に予定をしております。

7年度以降の予定としまして令和7年度に基本設計業務委託を予定し、令和8年度に実施設計業務委託、9年度から本体工事に着工予定となっております。経緯については以上です。

○会長

ありがとうございます。A委員さん、おそらく突然来てほとんど1人だけやってるような気がするんですが、これ資料はあらかじめ軽く説明とか目通しとかあった感じですかね。

○A委員 前任者から、はい。

○会長 この経緯の中で不明点だとか特にないですか。

○A委員 はい。特にありません。

○会長

ありがとうございます。皆さん一応共通認識を確認したいと思います。今年度から、先ほどありましたけれども、オブザーバーの方々も毎回入って結構去年の前半は、ふわふわしていたような感じで、今回はきちっとキャッチボールをしながら、建設に向けていけるんじゃないかと思います。

国交省から帰ってきた沖田さんは是非よろしくお願いします。では2番の建設候補地における地質調査結果についてお願いします。

○事務局

ごめんなさい、その前にですね、お手元の資料に総合交流施設建設事業に係る財政資料ということで、もう約1年前になるんですが、昨年、第6回更に推進する会で本町財政担当がご説明した資料を改めて再認識ということでお配りしてあります。

そのことについて再度、財政担当から皆様にご説明を頂戴したいと思います。

○町財政担当

事務局から説明した通り、今お配りしてる資料は昨年度11月時点での資料となっております。昨年度出席された委員の方には重複するかと思いますが、まず、この資料の内容としては、地方債、町債と呼ばれるいわゆる簡単に言えば、お金の借り入れの制度についてお話したところです。

地方債というのは、普通の借金とは違って、交付税措置という普通交付税にお金が算入されるという、そういった仕組みがあるものでありまして、借金借金と言いますがちょっと、それとは違うという説明をさせていただきました。

次に実質公債比率というものがありまして、ちょっと言葉は聞き慣れないところもあると思うんですけども実質公債比率というのが、和泊町の自由に使えるお金のうち、借金の返済に充てている額の割合ということで、数値化し指標化されたものでございます。

和泊町の昨年度の公債比率は16.4ということで、県内でも一番高い数値になりまして、これは令和5年度も16.6という数字でワーストワンとなっております。これは10年連続ワーストワンになっておりまして、今後も落ちない見込みとなっております。その落ちない理由としましては、先ほど申し上げた交付税措置というものがございまして、その交付税措置というのは、例えば、お金を借り入れた分、借金返済するもの、借金返済に充ててねって国が配るお金なんですけど、その交付税措置の割合が悪い事業を使っているものがたくさん残っているため、交付税措置が減っている。

あとは下水だったりとか、老朽化に伴う、維持管理の経費がかかっているものについては、そこは借り入れがとてにかさんでおりますので、そういったものが要因として実質公債比率は落ちないということになります。

基準としまして実質公債比率、基準っていうのが17.0、18.0っていうのを示している例でございますが、この18.0というのがとても大事でして、今16.6なんですけど、18.0にな

りますと許可団体といいまして、この起債、お金を借り入れるときに、県の許可が必要になってしまう。

今は県の許可じゃなくて同意で、好きなように借りれるんですけどそれが規制されるということになってきますので、18.0の許可団体、実際今許可団体になってるのは全国で夕張市以外はない状態。県は18.0にならないように、17.0になった時点で、何かしら関与すると言ってきて、今16.6なんですけど、17.0にならないように私たちは、歳出のコントロールをしているところなんですけど、これは本当にすごい厳しい状況でございまして、その説明も昨年度もしましたが、令和5年度決算でも変わらない状態でした。

ですので、何が言いたいかと言いますと、この実質公債比率の関係で言いますと、総合交流施設の建設にあたっては、財政シミュレーションをした結果、補助金無しでは18.0を超えてくるので、18.0を超えると、この総合交流施設以外の道路のインフラだったり、土地改良事業だったり、他の施設の整備だとか、他の事業に影響を及ぼしかねないという状況になります。

ですので、昨年度も申し上げた通り、この建設事業については、補助金がマストということをお願いしたいところです。あと補助がない場合、もし補助がない場合は規模をもうちょっと見直すといいますか、予算にあった規模でやっていただきたいというのが、昨年度ご説明した通りです。以上です。

○事務局

財政担当の方から、現在の状況についてご説明がありました。このことを踏まえて今後、建設にあたっては協議していきたいと思えます。

では、資料2の建設候補地における地質調査結果ということで、これもですね昨年度3月には皆さんに1回ご説明をしているところですので簡単にご説明いたします。

昨年12月末から3月末にかけて、施設建設候補地であります、城ヶ丘中学校東側にて各箇所地質調査を実施しております。その中で8層確認されており、皆さんに見ていただきたいのが、調査結果のN値というところで、N値というのが地盤の強さを表しているということで、この数字が高ければ高いほど大きいハコモノを作る時の支持地盤となって、支えてくれる地盤であります。

結果としましては12.7から25m付近により出現する最下層の弱風化花崗岩ということで、もっとも信頼性が高く妥当であるというふうに提案されております。また、その8ヶ所のうち、地下水位についても存在しないと判断されているところです。以上です。

○会長

今の説明で何か再確認だったりありますでしょうか。次の資料3、建設規模についていきたいと思えます。

○事務局

資料3になります。昨年度まで皆さん、これをもとに協議していただいたと思えます。A案から、C-2案まで4パターンをお示ししているところです。

A案については、バレーコートで言えば3面とサブ1面、B案についてメインがバレーコート2面のサブが1つ、C案についてはバレーコート3面のみ、C2案についても3面のみとなっております。

これまでの協議の中を見ますと、皆さん更に推進する会での意見というのが、A案になるのかなと思っているところですが、皆さんの結論はA案でよろしいですか。

○会長 皆さん首を振っていますが。

○B委員

じゃあいいですか。もう半年も経ちますので、前の資料を見てそれから地質調査をして結果、実際何本必要で一本幾らぐらいかかるのか知りたい。

資材が高騰してきて、お金が予想をはるかに上回る可能性が大ということで、果たしてここに3面1面のコートが建つかってなってくると、ここはもう無理じゃないかな。

10年、20年を見たときに、そんなに人口も増えないのであれば、でも最低でも3面大きなのが必要だと思ったときに、ではサブはどうなってくるのかというと、城ヶ丘中学校の体育館なんですけど、でも合併しないとその体育館も使えないということで、一番思ったのは体育館を考えるんですけど、果たして体育館だけ考えていいのか。

いろんな教室を使う、作る上で、合併も考えてくれたらその校舎を使えば、余計かもしれませんが、少し体育館の規模が小さくてもいいのかなと思ったのを一番に考えました。

でも体育館の話だけだと、学校があるときに隣に体育館があるのは有り得ないことだなと、前の会でも言いましたけど、そろそろ本気で統廃合と一緒に並行してやるのであれば、現実味があるのかな、もしくはグラウンド側に地質調査をして、そこに3面大きいのを作って城ヶ丘中学校の体育館をサブに使ってってということも考えた方が。

杭が一本幾らなのかが分かっていないので、何本打って一本いくらなのか。

○事務局

その杭につきましては、やはり建設する規模、高さ、大きさ、そういうのが出た上で、基本設計、実施設計、構造計算等いろいろあって、やっぱりそういったところも出さないことには、金額というのは中々出てこないところであります。

やはり、まずは規模を決めた上で、来年度の基本設計に向けた協議が必要なのかなと考えているところです。

また、先ほど出た小学校、中学校の統廃合につきましても、10月の第3回議会定例会において町長答弁にもありましたが、今後ですね、学校の統廃合検討委員会を立ち上げて協議していくということで町長も答弁しております。なかなか同時進行というか、統廃合がすぐすぐについていうのはおそらく厳しいのかなと、今後検討委員会を立ち上げてその中で協議をしていくというふうに検討するとしておりましたので、そういうのもいずれは出てくるのかなと思うのですが。

杭等につきましてはやはり規模を確定させた上で、基本設計、実施設計、構造計算等いろいろあると思いますので、その辺の詳しいことはですね、本日、榮建築士が来ておりますので、ちょっとご提案いただければと思っております。

○B委員 A案だと3面にサブだから規模はだいたい分かるのではないか。

○町建築担当 建物の重さを測らないといけないので。

○B委員 これでは読めないか

○町建築担当 そうですね。読めないです。

○事務局 本当にそうやってすぐに額が分かればいいのですが。

○会長

以前の会で、すごい概算で見積もりだったはずだけど、A案が32億から33億。B案が25億くらいで、C案が多分35億くらいになったということでメモ書きしてますけど、これは変わってる、もしくは上がってるという認識でよろしいでしょうか。

先ほどこちょっと財政から言ってた補助金がないともう財政シュミレーション上無理っていうのは、幾らの額がシュミレーションされているのか。

○町財政担当

シュミレーションしたのが27億と33億で2面プラスサブ1面と3面プラスサブ1面ですまして、補助金が50%の補助と補助無しで説明しまして、令和14年度には17.0を超えてくる。

ただ、あくまでも昨年度の数字なので、昨年度よりも実質公債比率がちょっと悪化してしまってるので、もう少し前倒しになるかもしれない。

○会長

去年もこれ議論しながら、川添さんがおっしゃったんですけど、やっぱり城中の見込みの全生徒数みたいなこの計画自体をすり合わせながらやっぱりやるのが必要で、おっしゃったみたいに今の体育館をサブで活用と本計画をいろんな施設で活用するのは必須なんじゃないかなと思うところがあります。いかがでしょうか。

○B委員 ボーリングは、見積書1者しかないですかね。

○事務局

地質調査は、うちが設計した範囲内で県内の業者10何者かで指名競争入札をしている。

○B委員 県外は。九州市内は。

○事務局 県内です。

○会長

町民グラウンド側をボーリングすると、また同額くらい1,200万円くらいかかるのでしょうか。

○事務局

何箇所やるかにもよるんですけど。グラウンドについていう話もいろいろ聞いてますが、城中校舎の支持地盤は10mちょっとってというのは聞いております。

○B委員 半分ですね。

○会長 現校舎を使うっていうのはいかがですか。意見ないでしょうか。

○副会長

統廃合が先なのか分からないんですけども、それを考えてしまうとここは進まないと思いますので、ここだけの話をしましょう。

○B委員 そうだけどどっちも時間かかると思うよ。1年ぐらいの差になるんじゃないか。

○副会長

前回の会の中での規模はもう厳しいので、規模を考えないといけないとなる時に、前回の規模よりかは。

○B委員

行政側がどう考えるかですが、こっちを先にしてもこっちが勝手に規模を考えてこうしますって言っても多分学校、子供たちに迷惑かかると思うよ。

○会長 実質もう城中は30人きるかきらないかじゃないか。

○事務局

36人ですね、令和11年までは36人です。それまでは減らない、それ以降に減ってきます。

昨年生まれた子供が23名なので、令和5年に生まれた子が23名ということは、6年後には、その人たちが小学校に上がって町内で23名なので、和小も含めてです。

大城小、内城小は4名5名で推移してくるっていうシュミレーションというかデータがあって、生まれた数で考えるとそうなりますので、和小が間もなく200名をきってくる、今210名ですので、もう間もなくして各クラス1クラスで内城大城はすべて完全複式になってくるのが令和12年ぐらいからと見込まれているところです。なので、中学校の統廃合について議会からも質問がありましたので、町民からも声がありまして、城中の方ではアンケートを取っております。

そういったところで今年度中に統廃合に向けての反対の意見，賛成の意見を取りまとめる協議の場を設定しますというふうに言っておりますので，それには議員さんも含めて参加していただいて，当然町民，その生徒さんの保護者だけではなく，地域の方，または議員さん、そして関係者，有識者含めた検討の場を設けて，合意形成ができた暁には，統廃合をしましょうっていう形で，まずは中学校の方からの統廃合をまず進めていたらどうだろうかというふうに考えてるところです。

小学校につきましても当然出てくるのでありますが，やはり群島内のご意見では小学校は最後まで維持していったほうがいいんじゃないかというご意見もあります。

ただ，コミュニティを継続させていくためにはどうしても必要なんでしょうけども，子供たちが少なくなってきた，共同活動をするために負担が結構あつたりするということもありますので，地域だけの声ではなく，やはり子供たち，保護者の声も十分汲取っていくというのが必要となって参ります。

そう考えたときに統廃合っていうのが，どのレベルでするのかっていうのをこれからの会議の中である程度，協議ができていってですね町民の方に周知できればなと思っております。早ければ2月ぐらいまでには会議を設定していきたいと思えます。

今後和泊だけではなく，知名の方もですね少子高齢化が進んでますので，両町またいでそういった会議になっていくのか，今後知名町とも連携していきたいと思えます。

○会長

ありがとうございます。ぜひ知名町とも協議をしながら進めていただけたらと思えます。では，建設規模をやり出したらきりがないので，次に進みましょう。じゃあ4番の基本設計業務についてお願いします。

○事務局

令和7年度基本設計業務委託を発注するに当たりまして，やはり大事になってくるのがこの3番の設計と条件になります。

この中で，施設の条件，敷地の条件ですとか，ある程度この会議において決定をした上で業務委託を発注したいと考えています。

これまでも様々な議論を重ねておりますが，来年度の発注業務に向けては，今年度中にですね，皆さん含めて協議をして決定していきたいと考えております。

やっぱり大事になってくるのが延床面積，何面にするのかとか，その中に総合交流施設ということで，多目的な要素をどこまでこの中に取り組んでいくのかということも含めてですね，ちょっと協議をしていただきたいと思います。

○会長

項目3の設計条件の②ですと，延床面積と主な諸室としてこの辺を詰めていくことになっていくと思えます。

ちょっと気になってたのが，去年，書いてはいなかった図書室というのが書かれているんですけど，これはどういった意図があって入れているのでしょうか。

○事務局

これは私が勝手に入れました。というのが私、今年度教育委員会にきまして、図書館の老朽化が結構激しくてですね、漏水補修ですとか、その建物自体が経年劣化等が酷くそういう状態ですので、今後ですね、総合交流施設ということで規模は縮小になるのかなと思うんですが、図書館、そういった物も含めて検討できないかなと思って私一個人的な意見なんですけど、入れさせていただきます。

○会長

去年、森田委員からですね、図書館の案が出てまして、皆さんすごくいいのではと意見が出ていたんですけど、兼子さんどうでしょうか、今のうちに言っていたら、ひょっとしたらお望みの物が。

今体育館のガラス張りに図書館があるという、他にはないような体育館が。

○事務局

図書室って結構大きいイメージがありますよね、町立図書館とか、蔵書も5万冊ってあるんですけど、今後は電子図書が普及してくる時代ですので、もう皆さんほとんどスマホで本とか読まれてたりとかしてると思います。

高齢の方は、やっぱりその物を見ないとできないと思うのですが、やっぱり10年20年先を見たときに、電子図書、こういったタブレットっていうのはもう普通の道具として扱われてる時代ですので、そんなに蔵書っていうのがかかる必要がなくて、端末一つで検索してとか、それですぐコピーして貸し出しとか、そういったのができる時代となっておりますので場所はそんなに取らなくてもいいのかなと思っています。

現状としては、鹿児島市とか鹿児島市立図書館とか、そういった電子図書が始まってきておりますので、今のところちょっと予算が高いってことがあるんですけど、また、その複合施設にすることで有利な事業も文科省の方では準備してる場所もあるので、そういったところで工区分けをした工事とか、そういったものをですね、考えていく必要もあるので、こういった文化的な施設、生涯学習の拠点になる一つ一つのキーワードになってくるかなと思っていますので、そういったご意見等をどんどん出していただければと思います。

○事務局

今までもその図書館の話は出てたんですけど、家族で来て、親子で来て、過ごせる場所を作りましょうというところであったんですけど、先ほどあったみたいに、統廃合があれば、パソコンがありませんのでパソコン室も全然図書室として使えるということで、施設同士を繋げてみたいな感じでやっていけば、有効に使える統廃合ありきで考えていけない部分もありますけど。

社会教育施設は、弓道場と柔剣道場と老朽化が酷く、修繕ばかりしている、そういった将来的なことを考えると体育館は複合的にならないといけない。

○会長 それだと議論ができなくなります。

○B委員

でもこう言っちゃあれですけど、2面だと防災とか、これから運動会なども天気関係なく行われるような時代になるので、そう考えたときは、一番大きい学校がある程度運動会できる面積が無いといけないし、海岸側の施設が大体潮風にやられてるので、一つやっぱ大きなものを城中地区に潮が当たらないところに置くのも大事なことだと思いますので、どこかの議員さんもいろいろ反対していますが、何か起こった時に責任取れるのかって話ですよ。

やっぱり行政が考えなきゃいけない。だから、この会議の意義は大分あると思いますので、時間もそんなにないんですけどなるべく早めがいい意味で、前向きな計画ができればと思っています。

○事務局

規模を考える上で最初に財政の説明をしたら、ちょっと話も進まなくなるのかなと、それはそうではあるんですけど、建てた後当然、体育館、空調設備も取り組んでですね、和泊町が今先行して行っております省エネ・創エネ、脱炭素につきましてももちろん企画課と連携しながらですね、今回企画課から沖田さんがきておりますが、特に空調につきましては相当な維持費がかかると考えておりますので、そこは一緒にやっていたらなと思っています。

また昨年まで、国交省の職員でもありますのでやっぱり一番大事なものは、大きい補助事業をですね、どうにか取ってこないことにはやはりこの事業が進んでいかない。

今年計画して来年すぐに着工とはいかない、特に補助事業はですねやっぱり申請主義ですので、もちろん数年前には申請をして、補助金を得るという形になりますので、ここをですね、協力も得ながら、何かいい事業がないかというのは、常に模索してるところであるんですが、中々難しいところがあります。

今後やっぱり一番の課題はそこなのかなと考えているところです。

○会長

予算の上限を30億というふうで見ながら、これを縮小させてくるっていうイメージで進めていくっていうことになりますよね。

○副会長 ちなみにA案はいくらでしたっけ。

○会長 32, 32.7億。B案が24.5億, C案が35億, C-2が25億。

○A委員 維持費とかはどのくらいかかるのですか。

○会長

ほぼ同じ感じの規模の体育館がランニングコストとして年間3,000万円ぐらいかかる感じですね。

今協議会で協議をしてるんですけど、やっぱり何かしらの団体自体が、きちんと少なからずその設備を利用して稼いだお金でせめて人件費や光熱水費を幾らか補填できるような力を持った組織じゃないと中々運営できないってなるし。

また、その辺の運営の話もどういう法人格かわかりませんが、今日いらっしやってないけど、元気！わどまりクラブが施設運営していくのか、まわせるのか議論していかないとけない。

○町奄振担当

いろいろその設備関係もやっぱり皆さんおっしゃったんですけど、検討していく中では必ず必要な維持管理費のことも考えて、同規模の3,000万円って言いましたけど、それを自分たちで発電して賄えるような、最初にその説明がしっかりできればいいのかなと思います。

○事務局

今、交付金が無くなって、分割した補助金を使えないかっていうことを考えたことがあって、というのはサブアリーナの方を補助率が低い3分の1の文科省事業で、もう1個の3面の方を奄振だったりいろんな他の事業を使って分けて作ること自体は文科省はノーとは言わなかったんで、作れないことはないんですけど、先ほど財政からもあった2分の1の補助があった方が借入額が少なくて済むので考え方ではいろいろそういうような分割発注をしていけるのであればですね、当然バスケットゴールだったり、バレーコートであったり、そういった付帯施設もお金がかかりますので、そこでも何千万か、かかったり、下手したら1億近くかかってくる場合もあります。

今回、体育館なので文化施設ではなく、総合体育館なので皆がスポーツで使うという、または子供たちが遊んだりできるような施設として進めていった方がいいんじゃないかっていうのが前から話がありますので、そういう付帯的なステージとかですね、そういったものを今後設計していく中で非常に必要なかどうか、そういったのをまた皆さんで議論していただければと思います。

考えたのは、全く何もない舞台もなくて、ただの体育館、空間があって舞台は作れますので、音響も持ってくれますので、そういった業者を使ってやっていくっていう、ただのハコモノですね、レンタルじゃないですけどそういった考え方も必要じゃないのかな。

多様なニーズがある中で、時代が変わっていきますので、それにも対応できるような設計にした方が。

小学校の校舎を見てわかると思いますが、すごいデザインといった、後で非常に困ることになるので、何も無い方が後々イノベーションするにしてもやりやすいのかなと思うので、そういったのを考えたらどうかなと思います。

○副会長

資料にあるスポーツ施設整備における補助制度っていうのは全部使えるのでしょうか。

○事務局

ただ国交省の、ここに書いてある社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金、都市計画区域以外とありますが、都市計画区域外なので、これが使えない。使えないので、これが使えたと2分の1なので非常にありがたい。城中は都市計画区域外なので。

儀名山体育館は皆さんご存知のように伊仙町の、あそこは山の中にありますが、これを使えてるので2分の1です。

確か増築されてるところもあったりして、いろいろ聞いたんですけど、伊仙町総合体育館は、年間740万の維持管理で安いんですよ、エアコンがないんですが、ただ年間にスポーツの大会が10回以上、中学校の大会が5回以上あるということで、非常に利用頻度が高い、群島内でも駐車場が周りに隣接しているってことで、非常に使いやすい人気の体育館らしい。

一番この補助率が高いのが防衛省、まだ調べてはいませんが、先月もあった自衛隊の訓練とか、そういったところも含めて将来的な視点で、こういった交付金っていう活用方法もゼロではないのかな。

ちなみに鹿児島県のコンベンションセンター、313億というものがありますが、これは補助事業を使ってないということをお理解いただければと思います。

民間の資金、PFIという事業で行っていますが入札不調で滞っているという状態ではありません。

○会長

今どこもそれが沖縄もそうですし、あちこちそれが起こってますけど、その安く見積もってあげたことで、それが起こってまた滞るという可能性あるわけです

○事務局

それからその大きいからとか作りづらい環境になってきてるのかな。今、群島内でも新しく作るのは和泊町くらいで、更新という形になってきていると思います。

三儀山の総合体育館も築50年ぐらい経つんですが、改修して耐震化してそういうふうなこれからの方針で長寿命化に基づいた作り方なので、次に新しく作っていける時代ではなくなってきたなと思ってますね。

なので、もしできたら和泊町、すごいだらうって言われますおそらく。

○会長

話がつきないところではありますが、11月になりましたが今年度第1回目議論しました、新しい方も迎えましたので、今日で少しだけですが知識量も入れていただいた上で、次回からまた更に本格的な議論になることを期待しております。

○事務局

補足よろしいですか。令和6年度に予算を上げているんですよ、というのは地質調査とか、A案の中にも載っていますが、雑木林があるんですけども地質調査もしたところもあるんですけど、そこも伐採という予算を計上してあります、その予算は議会からまず場所が決定

してから伐採して欲しいという注文が入っていますので、これが残り4ヶ月足らずしかもう残っていないので、3月ではバタバタしますから、早いうちに12月中に決定をして1月から業者をお願いしてですね、作業していかないと間に合わないと思いますので、せっかく予算計上していただいておりますので、スピード感じゃないんですが、来月の会議の時にある程度決めて、また議会等にも町民の方にも決定しましたというふうに伝えられるのはそういう議論ができればと思っています。

○会長

そこもちょっと重複するんですね統廃合、先ほど言った中学校もおそらく先に移行しながらやらないと決めるに決められない。

その辺を中学校と地域の方々と話し合いを進めていくことになると思います。閉会は副会長の徳田さん。

○副会長

はい1時間という短い時間だったかなと思うんですけども、新しいメンバーで立ち上げてるわけですから、早く皆さん、意見をどんどんいただきながらですね、進めていければと思っています。

今回は12月ということで、そこはどのような内容というのも決まっていますか。

○事務局 この資料④を詰めていくことに徹したい。

○副会長

規模ってということですね。皆さんの方で資料がありますので、ここでまた改めて早く決まるような形をですね、決めて次回はもう規模まで決定できるような形で進めていければと思っていますので、そこまでぜひ皆様方来ていただいてですね、12月に決定できればと思いますので、ご協力よろしく申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

○事務局 ありがとうございました。

3 閉会